

# 楽天・スタイル・リスク・ プレミアム戦略ファンド

追加型投信/内外/資産複合/特殊型(絶対収益追求型)

## 交付運用報告書

第2期(決算日 2019年11月20日)

(作成対象期間 2018年11月21日~2019年11月20日)

### 受益者の皆様へ

平素は当ファンドにご投資いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、このたび上記決算を行いました。当ファンドは、主としてアイルランド籍円建て外国投資信託への投資を通じて、世界の株式、債券、通貨および派生商品の幅広い資産に投資を行い、投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。ここに当期間の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

当期末	
基準価額	9,741円
純資産総額	1,022百万円
騰落率	1.7%
分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページアドレスにアクセス

⇒「基準価額一覧」から当該ファンドを選択

⇒「運用報告書(全体版)」を選択し、閲覧およびダウンロード

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## 楽天投信投資顧問株式会社

<http://www.rakuten-toushin.co.jp/>

東京都世田谷区玉川一丁目14番1号

本資料(交付運用報告書)の記載内容のお問い合わせ先

TEL: 03-6432-7746

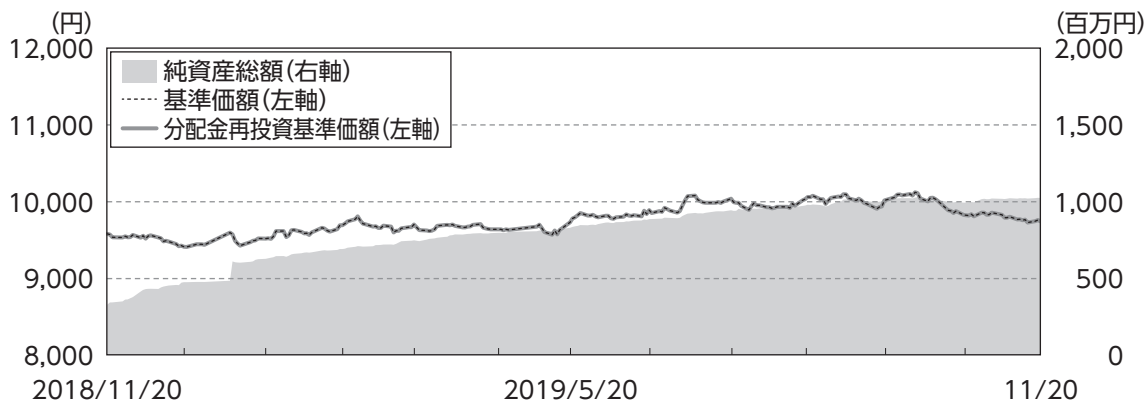
受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで

※お客様のお取引内容等につきましては販売会社にお問い合わせください。

**Rakuten** 楽天投信投資顧問

# 運用経過の説明

## 1 基準価額等の推移



期 首：9,578円

期 末：9,741円(既払分配金0円)

騰落率：1.7%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を起点として指数化しています。

## 2 基準価額の主な変動要因

当ファンドは円建ての外国投資信託である「マン・ファンズ・VI・ピーエルシー - マン・オルタナティブ・スタイル・リスク・プレミア(クラスIH 日本円シェアーズ)」(以下、「外国投資信託」)を主要投資対象とするため、当該外国投資信託の基準価額の動向が基準価額の主な変動要因となります。

当期においては、外国投資信託の基準価額は上昇しました。

戦略別には、ディフェンシブ戦略が収益を牽引したほか、キャリー戦略とモメンタム戦略も堅調となりました。一方で、バリューストック戦略からは損失が発生しました。

ディフェンシブ戦略では、主要国の金利が全般的に低下傾向となったなかで配当利回りが高く業績も安定している低リスクの銘柄が選好される展開となり、低リスクの銘柄の買い持ちと高リスクの銘柄の売り持ちから収益を獲得しました。キャリー戦略では、長短金利差や内外金利差に着目した主要国の債券の買い持ちを中心に収益を獲得しました。モメンタム戦略では、主に期初に直近までの価格のトレンドに着目した主要国の短期金利や債券の買い持ちを中心に収益を獲得しました。バリューストック戦略では、当期の株式市場において割安な銘柄よりも今後の成長性に対する期待が高い銘柄が相対的に選好される環境となったなかで、利益やキャッシュフローなどの指標で見ると割安度の大きい銘柄の買い持ちと割安度の小さい銘柄の売り持ちから損失が発生しました。

### 3 1万口当たりの費用明細

項 目	当期		項 目 の 概 要
	2018年11月21日～2019年11月20日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	28円 (24) (1) (3)	0.286% (0.248) (0.011) (0.027)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は9,772円です。 ・委託した資金の運用の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 ・運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	－	－	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	15 (－) (1) (14) (0)	0.156 (－) (0.014) (0.139) (0.003)	(d) その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用 ・その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料、その他投資信託財産の運営にかかる費用等
合 計	43	0.442	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

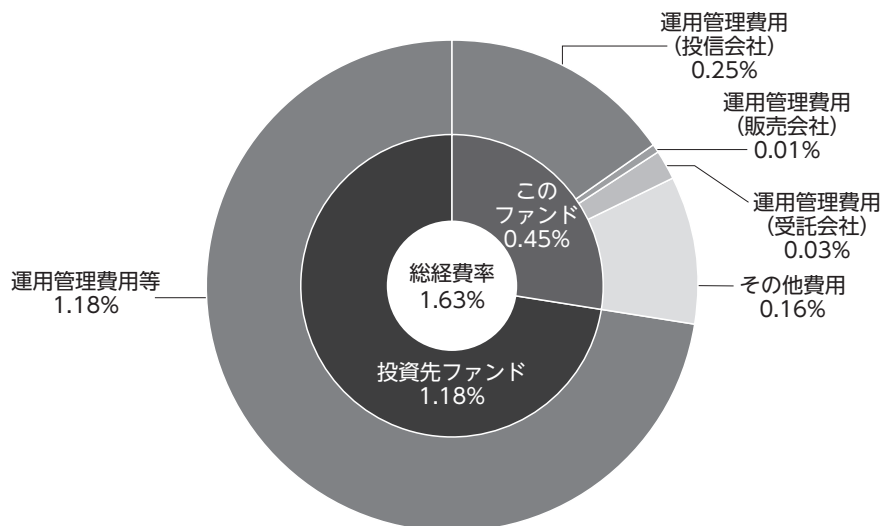
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注5) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く)が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

## ■ (参考情報) 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.63%です。



総経費率 (①+②)	1.63%
①このファンドの費用の比率	0.45%
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	1.18%

(注1) このファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) このファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

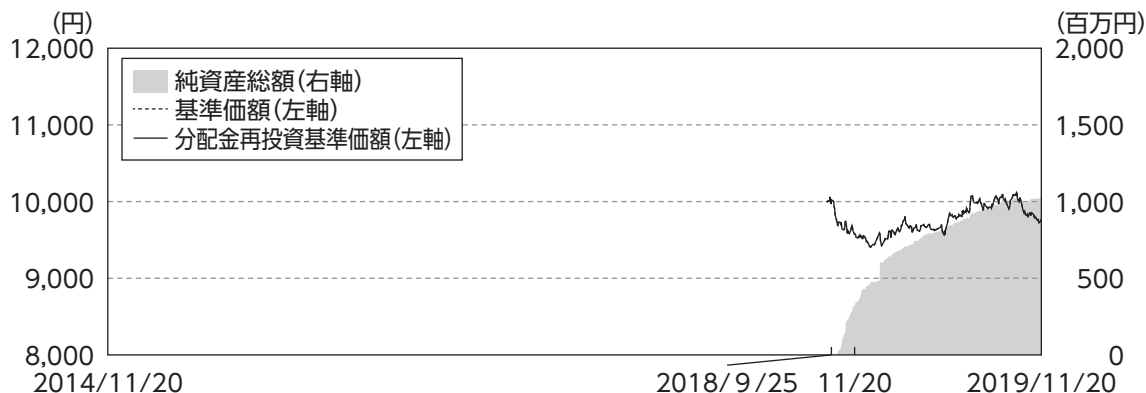
(注6) このファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

#### 4 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年11月20日～2019年11月20日)



	2018年9月25日 設定日	2018年11月20日 決算日	2019年11月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,578	9,741
期間分配金合計 (税込) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△4.2	1.7
純資産総額 (百万円)	1	326	1,022

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドの運用方針に対応する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、2018年9月25日の基準価額を起点として指数化しています。

(注5) 設定日の基準価額には当初設定価額を、純資産総額には当初設定元本を用いています。

## 5 投資環境

当期においては、世界経済の減速や米国と中国間の貿易摩擦問題、英国の欧州連合からの離脱問題などに対する懸念の強まりを背景として、2018年12月や2019年5月、8月に世界の株式市場はまとまって下落する局面がありました。しかし、世界の中央銀行が金融緩和政策を積極化する姿勢を明確化したこと等を支援材料に、いずれの局面も相場は短期間で反発し、10月以降はこれらの問題に対する警戒が徐々に後退するなか、主要国の株式市場は先進国を中心に堅調な推移となりました。

主要国の長期金利は、世界的に金融緩和が進むなか、米国、欧州、日本ともに低下しました。通貨については、域内景気動向への懸念が強まったユーロが下落した一方で、海外金利の低下等を背景に日本円は上昇しました。英ポンドは夏場にかけて大きく売られましたが、その後は英国の欧州連合からの離脱問題に対する懸念が後退したことから急激に買われる展開となりました。

日本の短期金利は、日本銀行による「量的・質的金融緩和」が継続するなか、当期も引き続き低位で推移しました。短期金利の代表的な指標の一つである国庫短期証券(3ヵ月物)金利は、期初の $\Delta 0.32\%$ 前後から期を通じてマイナスで推移し、 $\Delta 0.22\%$ 近辺で期末を迎えました。

## 6 当ファンドのポートフォリオ

### 当ファンド

追加設定・解約による資金フローを鑑みながら、主要投資対象である外国投資信託のパフォーマンスを享受すべく、当該外国投資信託の組入比率を高位に維持する運用を行いました。また、投資信託財産の一部を、親投資信託である「楽天・国内マネー・マザーファンド」に投資しました。

### 外国投資信託

当期においては、潜在的な損失拡大リスクが小さい戦略への配分を高め、そのようなリスクが大きい戦略への配分を抑えたポートフォリオの運営を継続すると同時に、採用戦略の拡充も実施しました。

当期に新たに採用した戦略は季節性戦略で、モメンタム戦略に分類されます。この戦略は、通貨、債券、株価指数といった主要資産における季節性を持った価格変動を利用する運用で、中長期的な有効性の高さや既存採用の戦略に対する分散効果を期待して採用したものです。なお、当期に除外した戦略はありませんでした。

### 楽天・国内マネー・マザーファンド

主に、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引による運用を行いました。

## 7 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 8 分配金

運用の基本方針等を勘案し、収益分配は見送らせていただきました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(1万口当たり・税込)

項 目	第2期	
	2018年11月21日~2019年11月20日	
当期分配金 (円)	—	
(対基準価額比率) (%)	(—)	
当期の収益 (円)	—	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	49	

(注1)「対基準価額比率」は「当期分配金」の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2)「当期の収益」は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、「当期の収益以外」は収益調整金および分配準備積立金です。

(注3)「当期の収益」および「当期の収益以外」は、円未満を切捨てて表示しているため、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、円建ての外国投資信託であるマン・ファンズ・VI・ピーエルシー — マン・オルタナティブ・スタイル・リスク・プレミア(クラスIH 日本円シェアーズ)と楽天・国内マネー・マザーファンドを投資対象とし、外国投資信託への投資割合を高位に維持することを目指します。

### 外国投資信託

引き続き、長年にわたる資産運用の実績／研究から導き出された有効な投資手法をパターン化した戦略を組み合わせた運用を通じて、中長期的な収益の獲得を目指します。

### 楽天・国内マネー・マザーファンド

資産の保全と流動性に留意しながら、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引、コール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を目指します。

## お知らせ

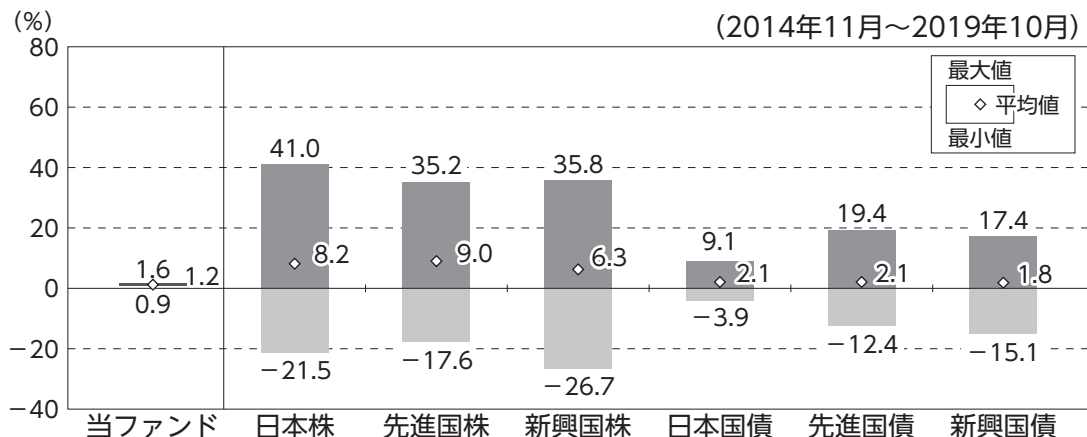
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)
信託期間	無期限(2018年9月25日設定)
運用方針	投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	<p>①主にアイルランド籍円建て外国投資信託(以下、「外国投資信託」)への投資を通じて、世界の株式、債券、通貨および派生商品の幅広い資産に投資を行います。なお、投資信託財産の一部を、親投資信託である「楽天・国内マネー・マザーファンド」の受益証券に投資します。</p> <p>②外国投資信託への投資割合は、原則として高位を維持することを基本とします。</p> <p>③外国投資信託において、ヘッジ目的以外の為替取引を行うことがあります。</p> <p>④外国投資信託においては、原則として当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、円に対する米ドルの為替リスクの低減をはかります。</p>
分配方針	<p>分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p> <p>留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。</p>



## ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1)当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したもので、決算日に対応した数値とは異なります。なお、当ファンドの騰落率は、設定日以降で算出可能な期間のみであり、代表的な資産クラスの対象期間と異なります。

当ファンドの対象期間：2019年9月～2019年10月

代表的な資産クラスの対象期間：2014年11月～2019年10月

(注2)当ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額に基づいて計算した騰落率であり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注3)すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株：S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株：S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株：S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：日本インデックス (円ベース)

先進国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債 (日本除く) インデックス (円ベース)

新興国債：ブルームバーグ・バークレイズ新興市場自国通貨建て高流動性国債 インデックス (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

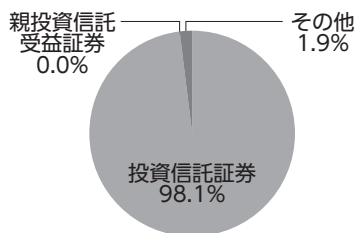
# 当ファンドのデータ

## 1 当ファンドの組入資産の内容

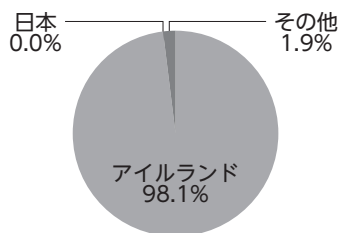
### ■組入ファンド

	当期末
マン・ファンズ・Ⅶ・ピーエルシー・マン・オルタナティブ・スタイル・リスク・プレミア(クラスI H 日本円シェアーズ)	98.1%
楽天・国内マネー・マザーファンド	0.0%
その他	1.9%
組入ファンド数	2

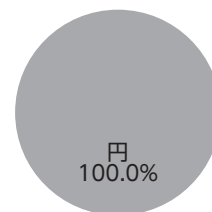
### ■資産別配分



### ■国別配分



### ■通貨別配分



(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

## 2 純資産等

項 目	第2期末
	2019年11月20日
純 資 産 総 額	1,022,602,020円
受 益 権 総 口 数	1,049,809,337口
1万口当たり基準価額	9,741円

※期中における追加設定元本額は766,333,908円、同解約元本額は57,537,366円です。

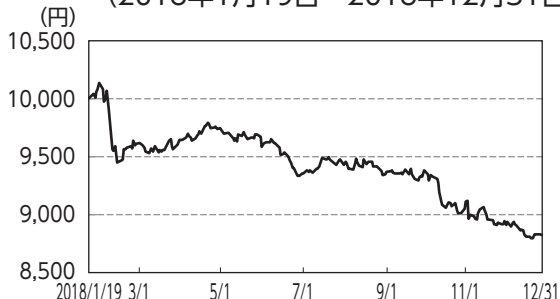
### 3 組入ファンドの概要

マン・ファンズ・VII・ピーエルシー・マン・オルタナティブ・スタイル・リスク・プレミア(クラスIH 日本円シェアーズ)

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

#### ■基準価額の推移

(2018年1月19日～2018年12月31日)



#### ■1万口当たりの費用明細

当該情報が取得できないため記載しておりません。

#### ■組入上位10エクスポージャー

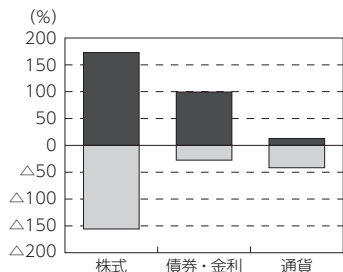
(2018年12月31日現在)

	銘柄名	比率
1	AUST 10Y BOND FUT Mar19 (SFE)	19.9%
2	JPN 10Y BOND(OSE) Mar19 (OSE)	19.8
3	FX FWD USD/CHF 9/1/2019	14.3
4	US 10YR NOTE (CBT)Mar19 (CBT)	13.5
5	Euro-OAT Future Mar19 (EUX)	13.4
6	CAN 10YR BOND FUT Mar19 (MSE)	9.2
7	EURO-BUND FUTURE Mar19 (EUX)	7.2
8	FX FWD JPY/EUR 11/1/2019	6.5
9	FX FWD USD/HKD 21/2/2019	6.1
10	FX FWD USD/SEK 18/1/2019	5.6

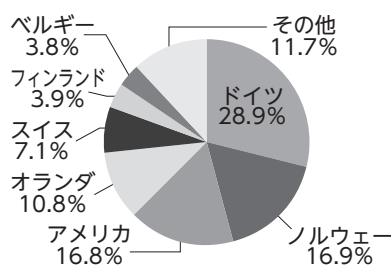
(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)マン・アセット・マネジメント(アイルランド)リミテッドより入手した情報を基に作成しております。

#### ■資産別配分



#### ■国別配分



#### ■通貨別配分

当該情報が取得できないため記載しておりません。

(注)資産別配分の組入比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の組入比率はポートフォリオに対する評価額の割合です。

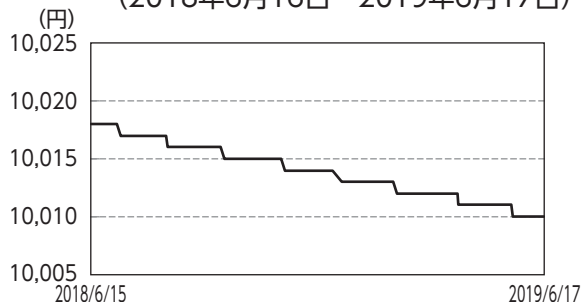
### 3 組入ファンドの概要

#### 楽天・国内マネー・マザーファンド

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

#### ■基準価額の推移

(2018年6月16日～2019年6月17日)



#### ■1万口当たりの費用明細

(2018年6月16日～2019年6月17日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (公社債) (現先)	—円 (—) (—)	—% (—) (—)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	1 (—) (1)	0.010 (—) (0.010)
合計	1	0.010

期中の平均基準価額は10,014円です。

(注)費用項目については2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

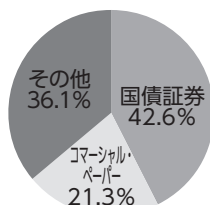
#### ■組入上位10銘柄

(2019年6月17日現在)

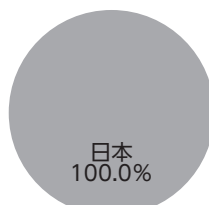
	銘柄名	発行国	比率 %
1	第824回 国庫短期証券	日本	42.6
2	T&Dリース01HB	日本	21.3
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
	組入銘柄数	2	

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

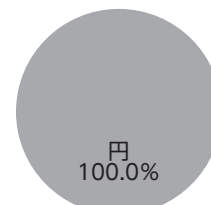
#### ■資産別配分



#### ■国別配分



#### ■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)国別配分につきましては発行国を表示しております。